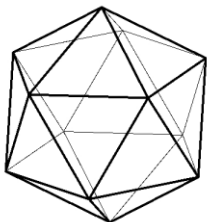




あかるく元気な子 だれにも親切な子 しっかり考える子 ことばを大切にする子

## 人にはだれでも、「よい面」と「悪い面」がある



○これは、何か分かりますか？ 知っている人は、正二十面体と答えるでしょうね。もちろんそれが正解なのですが、別の見方をすると、それ以外にもう一つ答えがあります。その答えというのは・・・？

『あなた』あるいは『あなたの心』です。

人間は、だれでもこうした『多面体』のようないろんな面をもっているということです。もう少し簡単に言えば、『よい面』も『悪い面』も、みんなもっているということです。

だから、「自分は悪い子だ」と、たった一つの面だけを見てすべてが悪いと決めつけている人がいたとしたら、それは大まちがい。今はただ、自分の『よい面』が出ていなかったというだけで、この多面体を転がしてみれば、『悪い面』がかくれて『よい面』がぱっと出てくるかもしれないということなのです。「あの子はいいなあ」とか、「自分はだめだなあ」と思う必要もありません。それは、そのとき、『よい面』が出ているか『悪い面』が出ているかの違いだけなのです。

だけど、そのままでは何も変わりません。「よーし！次は自分のよい面を出すぞ！」と考えて、自分の力でその多面体を転がさなければなりません。そうしないと、その『悪い面』が出たままで何も変わらないでしょ。強く決意すれば、面はくるっと変わります。だって、だれだって『よい面』をもっているんだから。新しく作る必要はないんだから。

中には、自分のどの面が『よい面』なのか分からない人もいるでしょう。でも大丈夫！ みなさんの周りにいる人が、ちゃんと教えてくれます。今年、全校で取り組もうとしている『あったかの実』の取組が、一人一人のよい面をしっかりと見つけ出してくれます。あとは、一人一人がその『よい面』をしっかりと磨いていけばいいのです。



○昔、テレビで、『よい子・悪い子・普通の子』という言葉が流行しました。私たちは、いつの間にか、子どもにそうしたレッテルを貼ってしまっていたのかもしれない。それが、知らず知らずのうちに、「自分は何をやってもダメだ」「あの子はよい子、自分は悪い子」と、自分で自分にレッテルを貼ってしまう子どもを育ててきたのかもしれない。

子どもは本来、だれでも向上心を持ち、成長への欲求を強くもっています。だからこそ、今の子どもたちには、『よい子』と『悪い子』がいるわけではない。だれにも『よい面』と『悪い面』があって、そのどちらかの面が出ているだけだ。」と教えることで、その子もっている『よい面』を伸ばし、どの子も本来もっているはずの向上心を引き出してやるのが大切なのではないのでしょうか。



参考：平 光雄 著 「道徳の話」 致知出版社